

「人権を学ぶとは、人と人との温かい

(「にんべん」)に「憂い」と書くけれど、本当は、「憂い」の横に「にんべん」なんだよと教えます。憂いのある人の横に「にんべん」、つまり人が寄り添うことを「優しい」というんだと教えます。

ある子どもが、「最近昼休み、一人ぼっちになるんや。ドッジボールに誘ってもらえへんのや」と言います。

「そうやな。それ、憂いの気持ちやな。辛いな…。そんな時に友だちが横に来て『おい、どうしたんや。元氣出せや。一緒に遊ぼうや』って言うてもうたら、どう思う?」

「ほっとする」、「うれしい!」
「そうやな。それが『優しい』って言うんや。ほんまに優しいというの、『とつても辛いな。しんどいな』って思ったときに、横におって『一緒に頑張ろう』って言ってくれる、そういう仲間を優しい仲間って言うんや。そういう仲間になるためにみんなと一緒に勉強したりして、そんなクラスをつくっていきこう!そんな学校、そんな社会にしたいな」と教えるのです。

「憂」の横に「にんべん」

と書くのは簡単なのですが、僕ら教師がどこにあるかと言ったら、往々にして「憂」の上に「にんべん」があるんです。よく「頑張れよ、応援してろぞ」と言いながら、上から見ている教師があるんです。それでは、この子の本当の気持ちは分かりません。

上にある「にんべん」を横に持つてくるにはどうしたらいいのか。それは簡単なことなんです。その子のそばに行つて聞いてやることです。ゆつくり聞いてやるのが大切です。

ついつい、ああしろ、こうしろと大人は言ってしまうがちですが、こういうときこそそばに寄つてやる。そんな親でありたい、教師でありたいと思います。

「優しさ」という貯金を!

子どもの心を「心の銀行」って言っているのですが、優しさは子どもの心に貯まっていけるのです。

だから、子どもの時に、この銀行にいっぱい貯金をした方がいいと思うのです。

心の銀行に優しさの貯金がいっぱいあると、中学校や高校に行つて辛いことがあつても、その貯金を使いながら何とか乗り越えていきます。

また、自分に貯金があると周りの人に分け与えて励ましてくれるようになります。

ところが心の銀行に貯金が全然ない子が、しんどいことや辛い事に出会つたとき、反応が全然違うのです。「頑張れよ」と励まして「先生、もうほつといて!」、「もう出来ひんから、もう、ええわ!」と言つて投げやりになつてしまふんです。心の銀行に貯金があるかないかで、ここというときに踏ん張れるかどうか、決まってくるんです。

ではどうやって心の貯金をしていけばいいのでしょうか。一年生の担任のときです。粘土細工の授業の最中に子どもが大便秘をしたために、クラスが大騒ぎになりました。子どもが競つて一斉にグラウンドへ出るようにして、他の子どもにも気づかれないよう、教室に一人残つた子どもに処置をして、事なきを得て、ほ

つとしたことがありました。その後、学校であつたことをお母さんに連絡して感謝していただいたのですが、肝心なのは、ここからです。

「ただいま」と言つて帰宅した子どもに、いきなり、「何であんた先生に言わへんかつたん?お兄ちゃんになつて恥ずかしいやないの。しつかりしいや!」と言われ、大泣きして「明日もう学校へ行かへん!」というパターンが最も多いんです。でも、このお母さんは違いました。

「ただいま」と言つて帰宅したとき、「おかえり!さっき先生から連絡あつたで!何かいろいろあつたみたいやな。でもよかつたな。ちゃんとし

